

株式会社はり糸 代表取締役 ^{いけ かずき}池 一樹 氏

明治から作り続けるカステラが原点。 ここにしかない商品を提供したい



PROFILE

1959年生まれ、新潟市出身。大学卒業後、神奈川県洋菓子店と長野県和菓子店で修業し、1985年に帰郷。はり糸に入社する。1995年に代表取締役就任。その他、古町通5番町商店街振興組合 理事長、新潟県洋菓子協会 会長、新潟市土産品協会 会長などを務める。新潟商工会議所では小規模企業振興委員を務める。

はり糸は今年で創業151年を迎える老舗菓子店。一時期は多くの店舗を持ち、多様なお菓子を製造販売していましたが、現在は看板商品のカステラを中心とした地元密着の店として愛されています。5代目の池社長に、はり糸の歴史や古町への思いなどを伺いました。



株式会社はり糸

〒951-8063

新潟市中央区古町通5-618

TEL : 025-228-4471

E-mail : hariito1873@ybb.ne.jp

何事に対しても正直であること。
カステラはシンプルなお菓子ですが、
正直に真摯な姿勢で作ってれば、
必ずお客様に伝わると思います

新潟で初めてカステラを製造販売。 品評会の受賞を機に人気上昇

はり糸はもともと先祖が江戸時代末期に播磨の国（兵庫県）から新潟に移り、雑貨商を営んだのが始まり。その後、婿養子の池糸蔵氏が明治6年に菓子店「春花堂」を開業するが、「播磨屋の糸蔵」の通り名「はり糸」が、いつしか屋号になったという。その糸蔵氏が長崎の職人から製法を教わり、新潟で初めて販売したのがカステラだ。「高価なので当初は売れ行きが良くなかったようですが、全国のカステラを集めた品評会で一等賞になったのがきっかけで徐々に人気が出たと聞いています」と池社長。産まれて2日以内の卵だけを使った“しっとり感の強い”カステラは、今も多くの人に愛されている。

多店舗展開から脱却。 カステラに特化した店に転換

150年も店を続けてこられた理由について、「当り前のことを当り前にやってただけです」と話す池社長だが、5代目として新しい挑戦や大きな決断も行ってきた。その一つが1990年に開業した洋菓子店「クレーシエル」だ。「はり糸とは違う特色を出すため、思い切って洋菓子専門店にしました」。また、社長就任後は将来の経営を考え、新潟市内に20以上あったテナント店を閉鎖し、古町本店のみの営業とした。「それまではカステラが2割、他のお菓子が8割という比率でした。でも、はり糸の強みは何かと改めて考えたときに、やはりカステラだろうと。そこでお菓子の種類を絞り込み、カステラに特化した店にすることにしました」。



定番品をはじめココア、抹茶、小豆、ぼっぼ焼きをイメージした「ぼっぼ」など、多彩なカステラを揃える。近年は、越乃寒梅・別撰を使った「地酒カステラ」、季節限定カステラも好評。

店内には昔の製造風景を伝える模型も展示。時代は変わっても菓子づくりへの誠実な姿勢は受け継がれている。



漫画・アニメとリンクしたコラボも。 特色を活かして街を盛り上げたい

古町通5番町商店街振興組合の理事長でもある池社長は、新潟商工会議所と協力しながら商店街の活性化に取り組んできた。「2002年のオーバーアーケードの改修に合わせ、新潟の強みである漫画のキャラクターを銅像にして設置したいと、商工会議所の方と一緒にいろいろな漫画家を訪ねました。最後に伺ったのが私の小・中学校の先輩でもある水島新司先生で、お願いをしたら快諾してくれました」。また、当時5番町に漫画・アニメの専門学校が開校したことから、専門学校の学生と商店街がコラボした「萌えキャラスタンプラリー」を実施。今後も特色を活かした“アートの街”として盛り上げていきたいという。

地域に密着した菓子店として「わざわざ足を運んでいただけるような、ここにしかない商品を作りたい。お客様の口に入るものですから間違いのない、正直な商品を提供していきたい」と池社長。これからも原点であるカステラの味を守り続けるとともに、古町の魅力を発信していく。



商工会議所と協力して設置した水島新司漫画のキャラクター銅像は、古町通5番町のシンボリック的存在。今後も新潟の強みである漫画やアニメを街おこしに活かしていきたいという。